

<吹田市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

小学校

- ・第2図書室(低学年用図書室)の設置(全小学校)
- ・読書活動支援者の配置(1校に1名配置)

中学校

- ・読書活動支援者の配置(2校ないしは3校に1名配置)

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

吹田市小学校教育研究会 学校図書館部

部長：吹田市立山手小学校 梶川 知子
教諭

活動：月1回(第3水曜日が多い)午後

- ・三島地区のSLAに関する活動
- ・年間計画による活動(今年は学校図書館を活用した授業を実践：2年生活科)
- ・読書感想文コンクールの地区審査

吹田市中学校教育研究会 学校図書館部

- ・図書担当者会議を開催
- ・三島地区学校図書館協議会関連の活動

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・休み時間、放課後の図書館開館
- ・週1時間図書の時間の割り当て(小学校)
- ・地域、保護者、ボランティアによる絵本の時間
読み聞かせや蔵書の整理、本の修理(各学校単
位)
- ・図書委員会活動や児童集会での発表
- ・図書日より配布

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

小学校

- ・コンピュータ化(サーバーは教育センターにあり。LB@SCHOOL(FUJITSU)でデータを共有)

中学校

- ・蔵書をデータ化し、コンピュータにより管理

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

小学校

- ・従来の図書室の他、1教室分の広さで低学年用図書室が全小学校に設置。活用の仕方は学校によって異なる。必要に応じて、読み物教室・調べもの教室にしている学校もある。
- ・吹田市各校の蔵書数について、図書標準冊数を達成している。
- ・公共図書館の小学校向けのサービスとして「もうようんだかな」セット(図書館おすすめの本のセット)を1学期間、学校に学年毎に貸し出しをしている。また、団体貸し出しとして自動車文庫を利用した「ごりまる便」を月に1回。たくさんの学校が利用している。

中学校

- ・公立図書館との連携(団体貸し出し・ごりまる便利用)

6. コロナウイルス感染対策について

〈学校独自の対策〉

国のガイドラインを参考にし各校で工夫して行う

- ・三密対策(常時換気・入館人数の制限・椅子を減らす・立ち位置表示・一方通行)マスク着用
- ・入退館時の手洗い徹底
- ・図書の時間の工夫(二部制等)
- ・本の消毒(公立図書館に準じる)
- ・接触感染防止対策(ドア・カウンター・椅子・スイッチ・PCキーボードなどの消毒)
- ・教職員間での共通理解

7. タブレット導入

R2年11月より随時導入→授業での活用がスタート

<摂津市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

小学校

- ・全小中学校に司書教諭 1 人以上配置
- ・小学校 10 校に**読書サポーター**を配置

中学校

- ・5 校に**読書活動推進サポーター**の配置（各校 1 名）

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

小学校 市教研学校図書館教育部会

（代表：摂津市立味生小学校 山崎 隆史教諭）

- ・月 1 回会議
- ・12 月に読書感想文表彰（表彰式は実施せず）

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

小学校

- ・市教研 教研集会（2 月）で読み聞かせの実践発表を予定していたが、中止となった。

中学校

- ・府の加配教員が配置された学校で、蔵書と iPad を活用したビブリオバトルの実践等を実施した。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

小学校

- ・コンピュータ化（蔵書データ共有）

中学校

- 蔵書管理は各校、コンピュータ化
- ・情報 BOX ライブラリーサーチ
- ・MARC

5. 各市町村の学校図書館に関して、特徴的なこと

小学校

- ・小中学校の各校に 1 名サポーターを配置して

いる

- ・「読書ノート」の取り組み
- ・各校図書館担当者と読書サポーターの交流を年 2 回実施

中学校

- ・読書活動推進サポーター間での交流をもとに、図書館運営、図書だより等の活動の充実と、生徒への啓発に取り組んでいること。
- ・府の加配教員を活用した実践を研究発表会で報告した。

6. コロナウイルス感染の対策について（追加）

<行政の支援内容>

- ・感染拡大防止に必要な物品（アルコール消毒、非接触型体温計、液体せっけんなど）を、学校の要求に応じて納入。

<学校独自の対策>

- ・ビニールシート等で作成した衝立をカウンターに設置した学校がある。
- ・密を避けるために学年ごとに来室時間を決め、貸出等もそこに合わせて行っている学校がある。

7. タブレット導入について

- ・令和 2 年 12 月末までに全小中学校に一人 1 台の iPad が貸与された。

<茨木市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

・学習サポーターとしての図書支援員を全校配置

- ・市主催司書教諭対象図書館教育研修会実施
- ・図書館部研究授業は市主催の司書教諭連絡会との共催で実施

- ・物流システムの導入（市立図書館・各学校間）

- ・「茨木市図書館を使った調べる学習コンクール」の実施

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

茨木市教育研究会 図書館部会

部長 阿部ちさと先生 市立茨木小学校

5月 市教研総会（中止） 年間計画

6月 三島地区図書館協議会総会・夏季研修会（中止）

9月 市 読書感想文審査会

10月 三島地区図書館協議会・秋季研修会（中止）

12月 市 読書感想文審査会

2月 市教研研究授業・研究討議会（中止）

各校の図書館教育取組集約

3月 活動報告まとめとしての冊子作成
各校代表読書感想文掲載

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・ 休み時間の図書館の開館
- ・ 図書の整理
- ・ 新刊図書受け入れ
- ・ 調べ学習
- ・ 図書委員による読み聞かせ
- ・ 読書週間の設定・実施
（学校図書館を利活用した授業、読書活動を豊かにするための実践）
- ・ 研究授業・研究討議会（R2年度中止）
→各校の取組を集約 紹介
- ・ 各種研究会などでの報告
茨木市立穂積小学校 教諭 菅野 美奈
全国学校図書館教育研究大会（紙面開催）実践発表
2年国語科『ビーバーの大工事』
「科学読みものを活用したクイズ大会」
小学図書館ニュース 付録 取組掲載
「科学読み物を活用した低学年の調べ読み〜どうぶつのひみつをさがろう」
高槻市学校図書館教育研修
「子どもの学びを支える学校図書館の活用」

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・ 図書館管理ソフト「探調ツール DX」による蔵書管理
- ・ 相互検索による蔵書検索

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・ 各校の蔵書をデータ化し、オンライン化することで相互検索ができる。
- ・ 物流システムにより、市立図書館を含み相互貸し出しができる。
- ・ 市立中央図書館の協力により、書庫保管の蔵書を学級単位で数百冊借りることができる。
- ・ 全校に絨毯敷の第二図書室が完備されゆったりと本を読むスペースが確保されている。
- ・ 従来から図書館教育の研究を熱心に行い、府や三島地区の図書館協議会でも多数報告するなど、実践発表も積極的に行っている。
- ・ H26年度より図書館支援員（R2より学習サポーター）が全校配置され、司書教諭と連携し、図書ボランティア活動の活性化、図書の環境整備の充実が図られている。
- ・ 「レッツチャレンジ学校図書館を活用した『学び方』の手引き」の冊子を活用し、調べ学習等の図書を活用したワークの実践を行っている。

6. コロナウイルス感染対策

＜行政の支援内容＞

- ・ コロナ対策費が各校に交付されその中で図書関係のコロナ対策に必要な物を購入

＜学校独自の対策＞

- ・ 換気、手洗い、机等の消毒を徹底し図書貸出や開館業務を行う
- ・ 図書室に透明なデスクパーテーション設置
- ・ 図書専用消毒液の購入

7. タブレット導入

- ・ R2年度 一人一台タブレットの設置、教員研修等の準備期間 タブレット内にミライシード導入
- ・ R3年度より一人一台タブレットを活用した授業の開始
- ・ 市教委中心に「タブレット活用の手引き」作成

<高槻市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

小学校

- ・高槻は各小学校に市費で**図書館支援員**を各校に一人配置している。図書の時間や20分休みと昼休みの開館を支えている。

中学校

- ・**読書活動支援員**の配置（週2回 12:30～17:00）

全体

- ・公立図書館の事業として「**まちごと子ども図書館**」（各校への長期貸し出し。約200冊）を行っている。調べ学習への利用を目的とした「**テーマ別セット貸し出し**」や「**団体貸し出し**」がある。
- ・高槻市の図書館協議会に学校関係者代表として1名が委員として参加。公立図書館の事業が学校図書館の活用や活動に効果をもたらすものとなるように意見を述べ、協議をしている。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

小学校

- ・図書館支援員連絡会が、高槻市教育委員会主催で行われている。
- ・図書館支援員への図書館運営や蔵書管理の研修も行われている。

中学校

- ・読書活動支援員への連絡、研修が行われている。

全体

- ・市内小中学校全校から、協議員が選出され、**学校図書運営協議会**を組織している。校長会・教頭会からの役員と教育委員会事務局と公立図書館の担当者も総会や部会には参加している。

「事業部」「図書館教育部」「運営・管理部」と三部会に分かれて、一年を通して活動をしている。

各部の主な活動は下記の通り。

《事業部（第一部会）》

- ・大阪SLA、三島SLA関係の事業担当。

昨年度に引き続き今年度も三島地区学校図書館協議会の会長と事務局を担い、三島地区読書感想文コンクールを主催・運営した。

- ・高槻市読書感想文関係の担当。大阪府読書感想文コンクールならびに読書感想画中央コンクールの地区予選の審査運營業務を担当。
- ・高槻市読書感想文コンクール(審査・表彰)の企画、運営、冊子のまとめ等を担当。

図書館教育部（第二部会）

- ・子ども達への読書指導に対して課題を掘起こし、課題解消のための取組を交流、発信。
- ・市内学校図書館見学、講演会の企画、運営。
- ・お勧め図書ガイドの作成。
（見学、講演、ガイド作成は、毎年ではない）

運営・管理部（第三部会）

- ・学校図書館の管理、運営についての改善（授業で図書館を活用する時の悩み・困りごと、災害時対応、調べ学習のスキル育成など）
- ・司書教諭、公立図書館との連携

3. 学校図書館の具体的な活動例について

小学校

- ・全学年で図書の時間には本の読み聞かせや本の紹介、貸し出し、返却を行っている。
- ・週4日開館し、20分休みや昼休みに貸し出し返却をしている。

中学校

- ・読書活動支援員さんがおられる日に、貸し出しや返却。総合や特活での調べ学習。

全体

- ・学校館内の図書の貸借だけではなく公立図書館との仲介も行い、読物の選書や調べ学習の資料などの管理と貸出をする。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

全体

- ・蔵書はコンピュータ化されている（TRCのMARCを利用している）
- ・購入本については本のデータと一緒にすべてコンピュータ管理されている。
- ・寄贈本は各校によってコンピュータ管理されている学校とされていない学校に別れる。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

全体

- ・小中学校全校で蔵書基準値達成している。
- ・公立図書館との連携が強く、調べ学習の充実に向けて、セット貸し出し等の改善が毎年行われている。

6. コロナウイルス感染対策

行政の支援内容

- ・コロナ対策費が各校に交付されその中で図書関係のコロナ対策に必要な物を購入
- ・図書関係の外部団体から手指消毒液の寄贈。

学校独自の対策

- ・換気、手洗いを徹底し、返却された本は3日ほど置いてから貸し出し。表紙のみ消毒し、短いスパンで貸し出した学校もある。
- ・図書室に透明なデスクパーテーション設置

7. タブレット導入

- ・R3年2月、一人一台タブレットの設置、2～3月、教員研修等の準備期間。各学校において試験的に授業等でタブレット活用開始。ネットワーク増強工事により、図書館内でもタブレットが使用可能になった。タブレット内にミライシード導入。
- ・市教委中心に授業での活用を研究する教員チームを結成、実践を重ね、市全体への普及を図る。

<島本町>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

小学校図書館担当職員（計4名）H30.9～
中学校図書館担当職員（計2名）

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

図書教育部会 令和2年度 研究目標

「授業で図書室や図書を活用し、児童が図書に親しむ機会の増加や図書室の活性化を図る。」

5月 令和元年度 研究テーマ決定

9月 大阪府読書感想文コンクール審査

11月 各校の取り組み報告

12月 本年度のまとめ・課題の検討

1月 次年度の研究テーマ素案 検討

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

小学校

- ・学期ごとの読書週間の実施
- ・児童による本の紹介カード作成の取り組み
- ・図書館専属職員による読み聞かせ
- ・ビブリオバトル
- ・学校行事に合わせた調べ学習への対応
- ・図書や図書室を使って調べ学習
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ
- ・「読書ノート」の取り組み
- ・図書室を使った授業
- ・教科との連携

中学校

- ・学期ごとの読書週間の実施
- ・読書月間の実施
- ・教職員による本の紹介カード作成
- ・読書ボランティアサークルによる春、秋の読み聞かせ
- ・校外学習での事前調べ学習
- ・生徒委員会（図書委員会）による、ブックフェア
- ・お話宅急便

聞かせ

- ・校外学習での事前調べ学習
- ・生徒委員会（図書委員会）による、ブックフェア
- ・「読書の木」の取り組み
- ・お話宅急便

（図書委員による学童室への読み聞かせ）

- ・shima 2 bookmark

（教師によるお薦め図書の紹介を冊子にしたもの）

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

島本町全ての小中学校でデータを管理している。

使用ソフト：「TOOLi-S」（H29 .9 より）
（図書館流通センター（TRC）のインターネットソフト）

5. 各市町村の学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・町内全校で図書室を利用した授業の計画的運用を開始。
- ・学校図書館専属職員が配置され、司書常駐（小学校・中学校）が定着した。参観・学校公開時には来校者の入室見学を実施している。
（ただし今年度についてはコロナ禍により参観等が中止になったので実施できていない）
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ活動が充実している。
- ・公立図書館との仲介も行っている。
- ・図書館支援員連絡会が、島本町教育委員会主催で行われている。

6. コロナウイルス感染対策

行政の支援内容

- ・コロナ対策費が各校に交付されその中で図書関係のコロナ対策に必要な物を購入。

学校独自の対策

- ・換気、手洗い、机等の消毒を徹底し、貸し出しや開館業務を行う。
- ・図書館用消毒液の購入。

7. タブレット導入

- ・R 3 年 2 月、一人一台タブレットの設置、教員研修等の準備期間。ネットワーク増強工事により、図書館内でもタブレットが使用可能になった。
- ・市教委中心に授業での活用を研究する教員チームを結成、R 3 年度よりタブレット活用授業の開始。